

事項九 連合国ノ軍事外交及經濟調整會議一件

一一一〇 一一月十八日 在本邦仏國大使館ハニ
日本外務省宛

軍事外交及經濟調整ノ条件研究ハニ 一一月
向諸国会議開催ヲ提議並日本代表者署名方冊
越ハシ生

Très confidentiel.

Le Gouvernement de la République Française s'est montré soucieux, dès le début de la guerre, d'assurer entre les Alliés la meilleure coordination possible de leur effort.

Des entrevues ont eu lieu depuis entre les Membres des divers Gouvernements et ont permis de régler certaines questions dans lesquelles ces Puissances et la France étaient intéressées d'une manière spéciale.

Ces conférences ont démontré l'importance essentielle que présente pour l'intérêt commun le projet du Gouvernement Français de centraliser à Paris les réunions dans lesquelles seraient étudiées les conditions générales de la coordination militaire, diploma-

(羅外註記)

「大正五年三月十八日仏大使來省手交」(石井外務大臣花押)
(和訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

一一月十八日附在本邦仏國大使館簽書

極秘

戦争ノ開始以来仏蘭西共和国政府ハ出来得ル限り同盟国ノ

努力ノ最善ノ整調ヲ同盟国間ニ確保スルコトニ留意セリ

爾来諸国政府ノ閣員間ニ会見ヲ遂ケ其結果此等諸国及仏國

カ特ニ利害ヲ感スル數問題ヲ解決セリ

右ノ会合ハ同盟国並ニ中立國ニ関シ既ニ存在シ又ハ今後発生ベキ諸件ニ付軍事上外交上及經濟上ノ整調ノ一般的条

件ヲ講究スル諸会合ヲ巴里ニ集中セムトスル仏國政府ノ考

案カ共同ノ利益ト一致スル最も重要ナル所以ヲ証明シ英露

伊三國政府ハ今ヤ此考案ニ同意ヲ表シ白塞両國政府亦之ハ

加盟ベルノ意思ヲ表明セリ

共和国政府ハ日本國カ至シト思考セラル場合ニ此会合ハ

委員ヲ簡派シ得ルカ為ニ以上ノ情報ヲ日本帝国政府ニ知照

ベルト同時ニ最近ノ会合カ(一一月一十七日)巴里ニ於テ開カル

くヨコトヲ他同盟國ニ對シテ為セルト拘シク日本國政府ハ

tique et économique sur les points déjà existants et sur ceux qui pourraient être créés ultérieurement, aussi bien en ce qui concerne les Pays Alliés qu'à l'égard des Pays Neutres. Les Gouvernement Britannique, Russe et Italien viennent d'adhérer à ce projet;

les Gouvernements Belge et Serbe se montrent dès à présent disposés à y adhérer également.

Le Gouvernement de la République s'empresse de porter ces informations à la connaissance du Gouvernement Impérial Japonais afin que, s'il le juge a propos, le Japon puisse se faire représenter à ces conférences par un Délégué, et il le prévient, comme il le fait pour les autres Alliés, que la prochaine réunion aura lieu à Paris le 27 Mars. Les Pays adhérents y seront représentés soit par des Membres de leur Gouvernement spécialement délégués, soit, en raison des distances qui ne permettraient pas un déplacement, par leur Ambassadeur à Paris.

Tokyo, le 18 Mars 1916.

予始々加盟國ハ特ニ委任セラルタル其國政府ノ閣員ヲシテ又ハ距離ノ關係上其出張ヲ許ササル場合ニ、(巴)里駐在大使カシテ該会合ニ其國ヲ代表セシムルモノトス

十九百十六年三月十八日東京ニ於テ

~~~~~

一一一 一一月十四日 開議決定

連合国ノ軍事外交及經濟調整會議參列ノ日本

代表者トシテ松井大使ヲ指名ノ件

仏國政府提議ニ係ル軍事外交經濟調整會議統一會議ニ松井

大使ヲ帝国政府代表者トシテ參列セシム(會議ノ性質ハ外務大臣口頭説明)

大正五年三月一十四日

註 本書ノ冒頭余白ニ大隈首相ノ認印及八大臣ノ花押ノ押捺セラレアルヲ見ル

~~~~~

一一一 一一月十五日 石井外務大臣ヨリ
在仏國松井大使宛(電報)

軍事外交及經濟調整ノ為ノ巴里連合国會議
日本國政府代表ヲハシテ參列方ニ付請令ノ件

第一八号

一一一

九 連合国ノ軍事外交及經濟調整會議一件 二七三

往電第二二五号ニ関シ帝国政府ハ巴里會議ニ貴官ヲ帝国政府

ノ代表者トシテ参列セシムルコトニ決定シタルニ付右ニ御

承知アリタシ巴里會議ノ目的性質等ノ詳細ハ帝国政府未タ

之ヲ承知セザルニ拘ラズ貴官ヲ該會議ニ参列セシムルニ決

シタルハ連合諸國ト意思ノ疏通ヲ欠クコトナカラシメント

欲スルニ外ナラザル次第ニ付貴官ハ此儀篤ト御了解ノ上帝

國ノ義務トナルベキ事項其他何等帝国ヲ拘束スルコトトナ

ルヘキ一切ノ決議等ニ対シテハ總テ請訓ノ上处置セラル

様致シタシ尚ホ帝国政府ハ如何ナル場合ニモ陸海軍共現状

以上協商國ノ軍事行動ヲ幫助スルノ意思無之ニ付此儀篤ト

御含置相成タシ將又在本邦仏國大使ヘハ該會議ノ内容性質

ヲ詳ニスルノ機会ヲ得ザルニ拘ラズ帝国政府ガ貴官ヲ参列

セシムルコトニ決シタルハ連合諸國ト意思疏通ヲ謀ランガ

為ニ外ナラザル旨回答シ置キタリ

註 外務大臣発在仏大使宛電第二五号（三月二十二日發）ヲ

省略セルガ該電ハ前掲三月十八日附在本邦仏國大使館ノ覺

書ノ趣ヲ通報シ松井大使ヲ我方代表トシテ該會議ニ参列セ

シムル予定ナル旨ヲ予報セルモノナリ

軍事外交及經濟調整ノ為ノ連合国會議二日本

政府參加ノ旨回答ノ件

極秘

覚 書

帝国外務大臣ハ同盟國並ニ中立國ニ關シ既ニ存在シ又ハ今後發生スヘキ諸件ニ付軍事外交及經濟上ノ整調ノ一般的条件

件ヲ講究スル諸會合ヲ集中セムカ為ニ巴里ニ會議開催ノ件ニ關スル本月十八日附仏國大使閣下ノ覺書ヲ諒承セリ

帝国政府ハ仏國駐劄松井特命全權大使ヲシテ該會議ニ参列セシムルニ決定シ其旨既ニ同大使ニ電訓シタリ巴里會議ノ

目的性質等ノ詳細ハ帝国政府未タ之ヲ知悉スルノ機會ヲ得ザルニ拘ラズ帝国政府カ松井大使ヲ該會議ニ参列セシムルニ決定シタル所以ハ連合諸國ト意思ノ疏通ヲ謀ラント欲ス

ルニ外ナラズ

帝国外務大臣ハ以上ヲ仏國大使閣下ニ通知スルト同時ニ此旨共和国政府ニ伝達方ヲ依頼スルノ光榮ヲ有ス

大正五年三月二十五日東京ニ於テ

二七四 三月二十八日 在仏國松井大使（ヨリ

石井外務大臣宛（電報）

連合国間ノ軍事外交及經濟調整ノ為ノ會議議

事ノ狀況報告ノ件

第二四号

三月二十七日午前十時同盟諸国会議開催仏國首相ブリアン

氏先ツ開会ノ辭ヲ述ヘ本會議ノ目的ハ畢竟同盟諸國ノ戰捷

ヲ急速ナラシムルコトニアリ就テハ右目的ノ貫徹ヲ期セん

カ為同盟各國ニ於テ意見及希望ノ廉アラハ逐一開陳セラレ

タシト挨拶シタリ右ニ対シ伊國參謀總長 Cadorna 將軍ヨ

リ伊國ハ目下最モ重砲ノ欠乏ニ苦ミツツアルニ付与國ヨリ

之カ補給ヲ受ケタキ旨又露國 Gilinsky 將軍ヨリモ大砲小

銃彈薬陣營器ニ要スル金屬ノ補給ヲ受ケタキ旨申出テタル

處仏國當局者ノ語ル所ニ依レハ兵器製造ニハ現ニ全力ヲ尽

シツツアルモ何分ニモ労力欠乏シ兵器職工ノ大増員ヲ必要

トスヘク之カ為ニハ伊國移民法ノ制限ヲ何トカシテ寛大ニ

シ多数ノ伊太利人ヲ仏國工場ニ使用スルノ道ナキヤフ尋不

タルニ伊國外相ハ法律ノ改正ハ事甚タ容易ナラザルモ差當

現行法ノ適用ニ付手心ヲ加ヘ成ルヘク兵器職工ノ供給ニ

所謂 Blocus économique ノ問題ナリ Briand 氏先ツ議題

三二八

二七三 三月二十五日 在本邦仏國大使宛

ヲ説明シ同盟諸國ニ於テハ現戦争中独壇二國ヲ經濟上孤立ノ地位ニ陥シ入ルルノ策ヲ講シ居ル処包團ニ尚ホ十分ナラ

サル所アリテ諸種ノ材料敵國ニ潜入シツアリ右包團策実行ニ關シ倫敦ニハ戰時商業諮詢委員会アリ巴里ニハ敵國商業及補給制限委員会アリ二者共ニ半公半私ノ機関ニシテ互

ニ連絡ヲ有シ其ノ目的ノ遂行ニ從事シツアルノ現状ナルガ今後他ノ同盟諸國ニ於テモ右両委員会ニ委員ヲ派遣スルコトーン且各本国ニ於テ夫々同種ノ機関ヲ設ケ之ニハ與國ノ委員ヲ接受シ得ルコトセバ一層其ノ効果ヲ挙グルコトヲ得ベシト演述セリ

右ニ付伊国外相ハ類似機關ヲ國別ニ設置スルコトハ國ニヨリ之ヲ不便トスルモノアリ例へハ伊太利ハ瑞西トノ特種關係上國國ニ向フ貨物ヲ一概ニ制限スルヲ得ザル事情アリト云ヒ露國ジリノスキー將軍モ右ノ為隣邦瑞典ノ反感ヲ招クコトハ同國ニ取リ由々敷大事ナリト云ヘルガ審議ノ末是又委員会ニ附スルコトナリ右委員会ハ帝國政府代表者ノ參列ヲ求メタルニ付本使自ラニ出席スベキ旨答へ置キタリ尚明一十八日午前十一時ニ會議ヲ開キ同日ニテ會議結了ノ答

一一五 三月二十九日 在仏國松井大使ヨリ

石井外務大臣宛(電報)

連合国間ノ軍事外交及經濟調整ノ為ノ會議第一

二日ニ於ケル議事及決議報告ノ件

第一五号

往電第一四号ニ閲シ三月二十八日午前十一時本會議ヲ開キ先ツ委員会ニ附託セル諸問題ニ付其報告ヲ聽取シ兵器彈薬問題ニ關シテハ夫々適當ノ方法ヲ講シ都合ヲ付クヘキニ付特別ノ決議ヲナサズ經濟問題ニ付左ノ三項ヲ決議セリ

第一、連合諸國政府ハ經濟上ニ於テ其意見及利益ノ一致ヲ實現スルコトニ決シ近ク巴里ニ開催スヘキ經濟會議ニ向ヒテ右ノ一致ヲ實現スヘキ方法ヲ攻究シ之ヲ諸國政府ニ提議スルノ任ヲ委託ス

第二、本會議ハ物資ノ敵國ニ入ルコトヲ防遏センカ為採ルヘキ經濟上ノ手段ヲ統一増進スルノ目的ヲ以テ常設委員会ヲ巴里ニ設置スルコトヲ議決ス該委員会ニハ連合各國ヨリ代表者ヲ出スベキモノトス(註、常設委員会ハ諮詢機關タル性質ヲ有シ諸國ノ國內委員会ヨリ其原則上ノ決議ニ付通報ヲ受ケ之ヲ連合諸國政府ニ転達スルノ任ヲ有ス常設委員

会ハ國內委員会ニ代ルヘキモノニアラズシテ直接執行ノ権力ハ國內委員会之ヲ保持ス)

第三、本會議ハ次ノ決議ヲナス一、運賃ニ關スル國際中央局ヲ倫敦ニ設置シ成ルヘク速ニ其執務ヲ開始セシムヘキコトト一、海運ヨリ生スル負担ヲ連合諸國民ノ間ニ公平ニ配分シ且ツ運賃ノ上騰ヲ防止スル為メ取ルヘキ便法ヲ協同且ツ

急速ニ攻究スヘキコト

午後五時半更ニ本會議ヲ開キ次ノ決議ヲ為セリ

Les Représentants des Gouvernements alliés réunis

à Paris les 27 et 28 mars 1916, affirment l'entièrre communauté de vues et la solidarité des Alliés.

Ils confirment toutes les mesures prises pour réaliser l'unité d'action sur l'unité de front.

Ils entendent, par là, à la fois l'unité d'action militaire assurée par l'entente conclue entre les états-majors; l'unité d'action économique dont la présente conférence a réglé l'organisation et l'unité d'action diplomatique que garantit leur inébranlable volonté de poursuivre la lutte jusqu'à la victoire de la cause commune.

要ヘル「本會議ハ特種ノ問題」付実行手続ヲ講ズル外連

了セルカ要スルニ本會議開催ニ関スル仏國側ノ考ハ主トシ

テ此際連合各國ハ感情ニ於テモ行動ニ於テモ共ニ團結鞏固ナルコトヲ中外ニ表示スルニ在リタルコトト察ストノコトニ付本使ハ帝國政府モ議題等承知スル所ナカリシモ協商國側トノ提携一致ト意思疏通ヲ欲スルタメ在仏國大使ヲ参列

セシメタル次第ナリト述ヘタルニ「グレー」氏ハ之ヲ諒トシ尚「アスキス」氏ハ伊國側ヨリ提起ノ運賃問題等ニ付テノ用務モアリ兼ネテ伊國トノ提携表彰ノタメ羅馬ヲ訪問スルコトナレリト語ラレタリ

在仏、伊、露大使ヘ郵報セリ

ノ用務モアリ兼ネテ伊國トノ提携表彰ノタメ羅馬ヲ訪問スルコトナレリト語ラレタリ

在仏、伊、露大使ヘ郵報セリ

二七七 四月二十九日 在仏國松井大臣宛

(ヨリ)

連合國ノ軍事外交及經濟調整會議議事錄摘訳

送付ノ件

機密第八号

(五月卅一日接受)

大正五年四月二十九日

在仏 特命全權大使 松井慶四郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

附屬書 右議事錄摘訳

機密第八号

(五月卅一日接受)

大正五年四月二十九日

在仏 特命全權大使 松井慶四郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

テ決勝的成果ヲ収メタルコト無シ吾人ニシテ吾人ノ勢力ヲ

合一スルコトヲ得ハ吾人ノ勝利ハ期シテ俟ツヘキノミ
本會議ノ目的ハ戰局ノ大勢ト我實力ノ使用方法ヲ考察シ

連合諸國ノ有スル各種ノ手段方法ヲ審査シテ人員材料及弾

薬ヲ相互ニ融通スルノ途ヲ講シ併セテ總攻擊ノ條件ヲ考量

スルニ在リ本會議ハ同時ニ運賃及石炭ノ問題ヲ討議スヘシ

次テ「ジョツフル」將軍ハ本年三月十二日「シャンチー」

(總司令部所在地ニシテ一般ニハ秘密ナリ)ニ開カレタル連合諸國軍事會議ノ議事錄ヲ朗讀セリ大要左ノ如シ

独軍「ヴエルダン」攻撃ノ目的ハ開戦当初ノ戰略ニ立戻リ

先ツ仏軍ヲ殲滅シ而シテ後他方面ニ向テ協商各軍ヲ各次ニ

擊破セントスルニ在リ

敵カ各方面ニ融通シ得ル予備隊ハ漸ク其隊数ヲ減シ其兵質劣レルニ至リタリト雖今回ノ激烈ナル「ヴエルダン」攻撃ハ尚其勢力ノ甚タ侮リ難キモノアルコトヲ示セリ

独逸ハ今日迄最終ノ捷利ニ對スル信念ヲ有シ現在ニ於ケル

一切ノ困苦ハ将来ノ榮譽ニ對スル代價ナリト思惟セリ從テ

独逸カ此信念ヲ完全ニ維持スル間ハ尚一層ノ犠牲ヲ払フコトヲ辞セサルヘク仮令経済上及財政上ニ於テ如何ナル圧迫

連合諸国会議々事錄進達ノ件

連合諸国会議々事錄別冊ノ通差進候間御查閱相成度此段申進候敬具

追而會議錄原文ハ近日別便ニ托シ及御送附候

(附屬書)

議事錄摘訳

第一回會議

三月二十七日(月曜)午前十時開会

仏國首相兼外相「ブリアン」氏議長席ニ着キ先各國委員ニ對スル歓迎ノ辭ヲ述ヘ次テ本會開会ノ趣旨ニ關シ左ノ如ク演述セリ

「本會議ハ連合諸國間鞏固ナル關係、其終局ノ成功ニ對スル信念及協心同力画一ノ行動ヲ執ラムトノ確乎タル決意ノ表徵ニシテ之カ開催ハ實ニ現戰爭中特筆スヘキ一時期ヲ画スヘキモノトス

敵ハ吾人ノ協力ヨリ来ルヘキ危險ヲ感知シ我攻勢ヲ不能ニスルカ少クトモ之ヲ遲延セシムルノ目的ヲ以テ「ヴエルダン」ヲ攻撃セリ今日ニ至ル迄敵ハ其欲スル所ニ隨ヒ順次ニ對手ノ一ヲ択ヒテ之ト戰フコトヲ得タリト雖然カモ未タ曾

破スルコトニ努メサルヘカラス
其方策果シテ如何

今回「ヴエルダン」ニ於ケル獨軍ノ攻撃ノ不成功ハ主要戰線ニ於ケル一特兆ナリ敵軍實力ノ根源タル士氣ハ之カ為ニ損傷セラレ戰捷ニ對スル信念ハ之カ為ニ動搖セリ今ヤ独逸軍ハ予定ノ企画ヲ變セサルヲ得サルヘク之ニ就キ二様ノ場合ヲ想像シ得ヘシ

第一敵ニシテ決戦的成案ヲ有セサル限り今後尚ホ当初ノ計画ヲ固執シ多大ノ犠牲ヲ顧ミス仏國內ニ於テ人日ヲ眩惑スルニ足ルヘキ重要ノ地點ヲ攻略シ以テ已ニ傾キツツアル國民ノ信念ヲ回復シ併セテ仏軍ノ勢力ヲ消磨シ來ルヘキ總攻擊ニ於ケル仏軍ノ實力ヲ減殺スルコト

第二來ルヘキ連合軍總攻擊又ハ英露両軍カ仏國援助ノ目的ヲ以テ現ニ執ラントスル牽制運動ニ備フル為目下ノ攻擊ヲ中止シ各方面共守勢ヲ執ルコト

右第二策ハ独軍ノ現状ニ鑑ミ其真正利益ニ合致スルモノナ

ルヘキモ此策ハ独逸ノ經濟狀態益々窮屈ニ陥ルニ從ヒ特ニ民心ニ惡影響ヲ及ホスノ虞アルヲ以テ独軍力果シテ何レ

ノ方策ニ出ツヘキヤ遽カニ測知スヘカラスト雖之ニ対スル

連合側ノ執ルヘキ態度ハ三月十一日「シャンチイ」ニ於ケル各軍司令官會議ニ於テ已ニ確定セラレタリ即チ第一ノ場

合ニハ各國中準備ノ整ヒタルモノヨリ漸次攻撃ヲ執リ第二ノ場合ニハ連合各國軍總司令官ニ於テ最モ有利ナリト認ム

ル時期ノ到来スルヲ俟チ期日ヲ定メテ各軍同時ニ攻撃ヲ開始スルニ在リ尤モ連合各國ハ敵軍ノ状勢ニ顧慮スルコト無

ク不取敢前回軍事會議ノ決定ニ基キ直ニ「ヴエルダン」ニ於ケル仏軍ニ対スル独軍ノ圧迫ヲ緩ムル為メ已ニ一部ノ牽制的攻撃ヲ開始セリ英軍正面ニ於ケル英仏軍一部ノ更代及其正面一部攻勢ノ開始或ハ伊軍ノ「イソンゾー」ニ於ケルカ如ク又ハ露軍ノ北境ニ於ケルカ如ク其攻勢ハ總テ此意味

ニ外ナラス

巴爾幹方面ノ形勢ハ我ニ有利ナリ

土耳古ハ無能ノ状態ニ陥リ

勃爾牙利ハ戦争ノ迅速終結ヲ翹望セリ

三

尤モ巴爾幹ノ形勢著シク我ニ有利ト為リタル（新國力連合

側ニ加入シ又ハ巴爾幹交戰國カ独壇側ヨリ分離スルコトニ依リ）場合ニハ東方軍ハ適當ノ時期ニ於テ攻撃ヲ執ルヘキモノトス

一切ノ状況ヨリ察スルニ連合軍カ近ク執ラントスル總攻撃ニシテ其功ヲ奏サハ遠カラス戰局終焉ノ期ニ達スヘク隨テ連合軍ハ此一戰ニ向テ全力ヲ尽シ一挙ニシテ十分ノ勝利ヲ

示シテ敵ヲ引付ケ置クヘシ其今後ノ行動ハ形勢ノ変化ニ

応シテ之ヲ定ム

四、独逸ニ対スル經濟封鎖ヲ出来得ル限り厳密ニセムコトヲ希望ス

右「ジョッフル」將軍ノ報告ニ対シ特ニ發言ヲ希望スルモノ無カリシヲ以テ「ブリアン」氏ハ連合諸國ニ於テ欠乏ヲ感

スル事項ヲ審査シテ之カ數濟方法ヲ攻究セムコトヲ提議ス

伊國總司令官「カドルナ」將軍起テ曰ク「伊國ノ欠乏ヲ感

スルハ重砲ナリ伊國ハ英仏両國ニ向テ重砲ノ供給ヲ要求セ

リ重砲ノ欠乏ハ伊國ニ取り極メテ重大ノ問題ナルヲ以テ此

欠陥ヲ補フ為他國ニ於テ十分尽力アラムコトヲ望ム」ト

仏國軍需部長陸軍次官「アルベール、トーマ」氏ハ「ジョッフル」將軍ト共ニ慎重ニ本件ヲ考量シ差当リ一二〇ミリメートル砲若干門ヲ譲与シ得ル積リナルモ其砲數ニ付テハ確

言シ難シ但シ重砲六十門位ハ譲与スルコトヲ得ヘキカ如シ

ト述ヘ「ジョッフル」將軍ハ既ニ九十五ミリメートル砲ヲ

モ伊國ニ提供シタルコトヲ附言シ「ブリアン」氏ハ仏國カ

其同盟國ニ援助ヲ與ヘムトスルモ壯丁ノ殆ント全部動員ノ結果職工ノ不足ノ為其意ヲ果ササルニ依リ伊國ヨリ職工ヲ

一、連合軍ハ成ルヘク速ニ總攻撃ヲ開始スヘク其期日ハ各國總司令官ノ間ニ之ヲ協定ス

二、塞爾比亞軍ハ成ルヘク速ニ之ヲ「サロニカ」ニ送ルヘシ

東方軍ノ編成ハ當分其儘トシ之カ变更ノ問題ハ局面ノ推移ニ従ヒ後日之ヲ考量スヘシ

英仏軍ハ出来得ル限り山地ノ戰闘ニ適スル様編成スヘシ

三、東方軍及「アルバニヤ」ニ在ル伊太利軍ハ陽ニ攻勢ヲ

希臘ハ全ク我手中ノモノト為リ

羅馬尼亞ハ未タ十分ノ決心ヲ為ササルモ壞勃國境ニ向テ切リニ兵備ヲ整ヘツツアリ

送ラレントコトヲ希望スト述へ「ジョッフル」將軍ハ職工サ
ヘアレハ仏國ハ一層ノ製造力ヲ増シ七十五ミリ砲モ益々其
砲数ヲ増スコトヲ得ヘシト云ヒ「アルベール、トーマ」氏
モ亦仏國ニ於テハ現在使用セル職工ノ外尚十万ノ職工ヲ要
シ之ヲ得ルニ苦心中ナルヲ以テ先ツ伊國ニ於テ移民法ノ適
用ヲ寛大ニセンコトヲ希望スル旨ヲ述へ又露國ニ對シテモ
本件ヲ考慮セソコトヲ乞ヘリ

之ニ對シ伊國外相「ソンニノ」氏曰ク「伊國自身職工ノ不
足ヲ感シ居ルヲ以テ熟練ノ職工ヲ得ルハ困難ナリ普通職工
ハ尚多少ノ余裕アルヘク移民審査会ハ既ニ法律ノ適用ニ手
心ヲ加ヘ居レリ然レトモ伊國ハ特ニ瑞西方面塹壕工事ノ必
要上已ニ十萬以上ノ人員ヲ使用シ居ルヲ以テ国外ニ出シ得
ヘキ労働者ノ數ハ極メテ少數タルヲ免レス尤モ軍務ヲ免レ
タル四十才以上ノ労働者ハ幾何カ之ヲ得ルニ難ラサルヘシ
ト雖夫レモ彼等ニ与ヘラルヘキ保障ト仏蘭西ニ於テ彼等ニ
対スル有利ナル労働条件ノ確保次第ナリ

「アルベール、トーマ」氏ハ仏國ハ白耳義職工ノ製造シタ
ル物品ノ一部ヲ同國ノ為留保スルコトトシ頗ル好成績ヲ得
タルヲ以テ伊國トモ同様ノ協定ヲ為シ度旨述へ伊國委員ハ

リ讓与セラレタル重砲ノ如キ今尚目的地ニ到着セス重砲無
クシテ要塞地ヲ攻撃スルハ実ニ至難ノ事業タリ露國ハ又小
銃弾ノ欠乏ヲ感ス小銃弾ノ欠乏ハ重砲不足ノ結果之ヲ補フ
為屢歩兵ヲ以テシタル場合アリシニ基キ之カ為他國ニ比シ
多量ノ小銃弾ヲ消費セリ尚露國ハ或種金属ノ欠乏ヲ感ス」
露國大使「イズウォルスキ」氏曰ク「若シ「ロイド・ジョ
ージ」氏ノ提議ノ如ク兵器彈薬ノ製造了ルヲ俟テ之カ分配
ヲ為スコトセハ露國ノ如ク輸送ニ多數ノ時日ヲ要スルモ
ノハ之カ為非常ノ困難ヲ感スヘキヲ以テ本件ハ直ニ之ヲ攻
究スルノ必要アルヘシ」

「キチナ」將軍ハ英國ハ來年一月ニ入ラハ重砲ヲ他國ニ
供給スルコトヲ得ヘシト謂ヒ

「ブリアン」氏ハ重テ相互ニ人員ト材料トヲ交換スルノ必
要ヲ論シ仏國ハ「ヴエルダン」ニ於テ使用セル廢滅大砲補
充ノ要ヲ感スルモ而カモ尚一層ノ製造力ヲ増加シテ余裕ヲ
生スルヲ得ヘキヲ以テ他國ニ於テ之ニ要スル職工ノ供給ニ
尽力アランコトヲ希望シ「ソンニノ」氏ハ重テ労働者問題
ノ困難ヲ繰返ヘシ然レトモ軍事及耕作ノ必要ト両立スル
範囲内ニ於テ十分尽力スヘキ旨ヲ答ヘタリ

伊國労働者募集ノ困難ナルヘキコトヲ繰返セリ
之ニ對シ仏國委員ハ伊國労働者募集ニ関シ出来得ル丈ケノ
便宜ヲ伊國政府ニ於テ講セソコトヲ切望セリ

「ロイド、ジョージ」氏ハ英國特種ノ地位ヲ説明シテ曰ク
「英國ハ開戦當時小ナル陸軍ト大ナル海軍トヲ有シ後者ニ
向テ全力ヲ尽シ現ニ海軍ノ為ニ働ク者二百万ヲ超ユ然ルニ
一方陸軍モ亦切りニ増大シ之ニ要スル軍需品ノ製造ニ日モ
是足ラス重砲ノ製造ノ如キ工場ノ建設機械ノ買入職工ノ養
成ニ時日ヲ要シ實際製造ヲ開始シタルハ漸ク昨年夏期ノ候
ニ在リ本年末ニ至ラハ自國軍隊ノ所要ヲ充タン且露塞兩國
ニ對シテ援助ヲ与フルヲ得ヘシ而シテ英國モ亦仏國ト同様
職工ノ不足ヲ感シ現ニ伊國ニ供給スヘキ機関銃ハ同國政府
ノ約束シタル六千人ノ職工ヲ得サリシ為製造不能ニ畢レ
リ」ト述へ各國互ニ最善ヲ尽シテ兵器彈薬ヲ製造シ而ル後
出来上リタル兵器彈薬ノ使用方面ヲ決定セムコトヲ提議セ
リ

露國參謀本部委員「ジリンスキ」將軍曰ク「露國ニ最モ必
要ナルハ重砲ナリ露國ハ國內ニ於ケル製造及英仏ヨリ受ケ
ル補給ニ闊スル困難ノ外更ニ輸送ニ付テノ困難アリ仏國ヨ

「ブリアン」氏ハ又白國官憲ニ於テ仏國ニ在ル白耳義人ヲ
勧誘シテ仏國工場ニ労カシメムコトヲ希望スル旨ヲ述へ白
國首相「ド、ブロックヴィル」氏ハ白國人カ幾ト全部仏國
ノ工場ニ使用セラレ居ル事實ヲ指摘シテ仏國ト他國政府ト
ノ間ニ現ニ仏白兩國間ノ協定ト同様ノ協定即チ白耳義人カ
仏國工場ニ於テ一千時間働く場合ニハ其内六百時間ハ白國
軍ノ一〇五ミリメートル砲ノ製造ニ從事セシムルカ如キ協
定ヲ為サムコトヲ勸奨セリ

是ニ於テ「ブリアン」氏ハ委員会ヲ設ケテ本件ヲ審査セシ
メムコトヲ提議シ同時ニ彈薬問題ニ関連シテ石炭及運賃ノ
問題ヲ審査スルノ必要アルコトヲ注意シ「サランドラ」氏
ハ伊國ニ取り最モ重大ナル運賃問題ヲ提起セラレタルヲ謝
シ物資ノ欠乏ハ實ニ伊國ノ死命ヲ制シ伊國ハ現ニ小麦、石
炭及軍需品製造ノ為鉄屑ノ總体必要ニ迫マリ居レリ本件ニ
付既ニ英國政府ノ考量ヲ乞ヒタル旨ヲ述フ

「エドワード・グレー」氏起テ曰ク「英國モ亦他國ト同シ
ク石炭ノ欠乏ヲ感ス労働者ハ獨工場ニ於テ不足セルノミナ
ラス炭坑ニ於テモ亦然リ英國ハ其海軍ノ需要ヲ充シ及連合
諸國ノ需求ニ応スル為非常ナル多額ノ石炭ヲ產出セサルヘ

カラス而シテ政府ハ之力為全力ヲ尽スト雖尚不足ヲ感シ現ニ「グラスゴー」ノ一彈薬製造所ハ石炭ヲ得サルカ為其事業ヲ停止スルノ已ム無キニ至レリ若シ夫レ運賃問題ニ至リテハ一層重大ノ困難ヲ感シ其原因ハ船腹ノ不足ニ基ク英國政府ハ出来得ル限り多数ノ船舶ヲ入手スル為大ニ努力スル所アリ既ニ「カーボン」卿主宰ノ下ニ一ノ委員会ヲ設ケ仏伊両國ヨリ代表者ヲ出シ成ルヘク多数ノ船舶ヲ集メテ之ヲ連合諸国ノ間ニ割当ツルコトニ努メ居レリ開戦後造船業幾ト停止セルヲ以テ右ハ頗ル容易ノ事業ニ非スト雖モ英國政府ハ一切ノ困難ニ打勝ツ為全力ヲ致スヘシ」

此時塞爾維公使「ヴエスニッヂ」氏ハ第一問題ニ立戾リ弾薬製造ノ為塞國兵士中ヨリ熟練ノ職工ヲ求ムルコト不能ニ非ルヘキ旨ヲ述ヘタル後曰ク「シャンチイ軍事會議ノ報告中ニ塞國政府ヲシテ不安ノ念ヲ懷カシム一節アリ即チ巴爾幹交戰國ヲ独塊側ヨリ分離セシムル問題是ナリ大ナル有形無形ノ艱難ヲ嘗メタル塞爾維軍ヲシテ其同盟國ノ一力敵國ノ一ト交渉ヲ開始スルノ意アルコトヲ想像セハ同軍ノ勇氣ハ之カ為必スヤ沮喪セサルヲ得サルヘシ塞國政府ハ右報告中ノ一節カ誤解ノ種ト為ラサランコトヲ切望ス」

右ニ対シ「ジョッフル」將軍ハ仏國政府ハ塞國ノ希望ニ副フ為尽力ヲ怠ラサルヘク已ニ此目的ヲ以テ葡國ニ山砲ヲ讓与セムコトヲ請求セル旨ヲ述フ

是ニ於テ仏國國務大臣「ブールジョア」氏ハ専門分科会ヲ設ケテ兩問題ヲ審査セシメ且(一)ニ製造セラレタル兵器彈薬ノ融通(二)外國職工ニ依リテ仏國內ニ於ケル工場ノ製造力ヲ拡大スルコトノ二件ニ付報告ヲ為サシムルコトヲ提議シ會議ハ之ヲ採用セリ

「アスクライス」氏重テ英國政府ノ立場ヲ説明シテ曰ク「英國ハ已ニ二百万以上ノ軍隊ヲ海路輸送シ今ヤ之ヲ給養シ武

装シ及之ヲ戰場ニ送遣セサルヘカラサルヲ以テ英國政府ノ努力ハ決シテ尠少ニ非ス而シテ是カ為連合諸國ニ満足ヲ与ヘ得サルハ遺憾トスル所ナレトモ亦真ニ已ムヲ得サルニ出ルモノアリ」ト同氏ハ進テ海運ノ狀況ヲ改善スルノ必要ヲ述ヘテ伊太利ニ於テハ船舶輶輶シテ荷物積卸ノ為徒ラニ時日ヲ空費シ其結果運賃ノ上騰ヲ來セルノ事實アルコトヲ指摘シ英國ニ於テハ右改善ノ為次ノ措置ヲ執レル旨ヲ陳述セリ即チ(一)英國船舶ハ特別ノ許可ヲ得ルニ非レハ中立國トノ通商ニ從事スルコトヲ得サルコト(二)商船ノ建造ヲ発達セシムル為有ユル手段ヲ講シ(三)未熟ノ職工又ハ女子ヲモ加ヘテ熟練ノ職工トノ按配ヲ可成善クシテ以テ労働力ヲ増進シ(四)一切ノ奢侈品及必要欠クヘカラサル物品以外ノ貨物ノ輸入ヲ禁止シ(五)外國労働者ノ傭入ニ依リ及軍隊使用ニ注意シテ可成文少數ノ兵士ヲ使用スヘキ様良法ヲ講シ而カモ港

シ得ル船舶ノ一覽表ヲ作成セシメタリ該委員会ノ事業畢ラハ之ヲ英國政府ニ通報スヘク英國ハ之ニ依リテ其仏國ヲ援助シ得ル方法ヲ知リ得ヘク尚連合各國カ相互ノ競争ヲ避クル為其使用シ得ヘキ船腹ヲ總括シ必要ニ応シテ之ヲ連合諸國ノ間ニ分配センコトヲ英國政府ニ委嘱スルヲ以テ適當トスヘシ」「ブリアン」氏モ亦英國政府指揮ノ下ニ國際委員会ヲ創設スルハ一国内又ハ諸國間ノ競争ヲ避クル最良ノ方法タルヘキコトヲ説キ各國亦タ仏國ノ例ニ倣ハソコトヲ暗ニ懇意セリ

尚軍事會議報告ノ一節ニ閑シ塞國政府ノ名ニ於テ「ヴエスニッヂ」氏ノ為シタル留保ニ對シテハ本會議ノ一致ニ照シ何等不安ナカラシコトヲ要ス連合諸國ノ孰レタリトモ巴爾幹ニ於テ塞爾維ノ正当利益ヲ害スヘキ行為ニ出ツルコト無キハ勿論ナル旨ヲ宣セリ

右ニ付「イズウォルスキ」氏ハ「ブリアン」氏ノ所言ハ露國政府ノ意見ニ合致セル旨ヲ述ヘ「グレー」氏モ亦本件ニ付英國政府ハ仏露両國政府ト全然同意見ナル旨ヲ声明シ「ベスニッヂ」氏ハ「ブリアン」氏ノ宣言ニ對シ謝意ヲ表シタリ

是ニ於テ「ブリアン」氏ハ前ニ「ブルジョア」氏ノ為シタル提議ニ基キ軍需品製造ノ問題ニ通曉セル諸國委員ニ報告作成ノ任ヲ委シ度旨ヲ述ヘ會議ハ之ヲ採用シ「アルベルト、トーマ」氏「ロイド、ジョージ」氏「ダルリオ」將軍在仏露國大使館附武官「イグナチエフ」大佐、「ラシッヂ」將軍及仏國軍參謀副長「ペレー」將軍ヲ以テ分科會ヲ組成スルコトニ決定セリ

正午閉会

第一回會議

三月廿七日（月曜日）午後三時半開会

「ブリアン」氏經濟問題及獨逸國封鎖ノ問題ニ関連スル諸問題ヲ討議ニ附スヘキコトヲ提議シ曰ク連合諸國ハ軍事上ニ於ケルト同シク經濟上ニ於テモ敵ト戰ハサルヘカラス敵國ハ今ヤ既ニ戰後ノ經營ニ着手シ戰後幾何ナラズシテ仮令活動ノ新天地ヲ開拓セントスルモ其失墜シタル經濟上ノ地位ヲ速ニ回復スルノ計画ニ汲々タリ現ニ獨逸國ハ戰後ニ於テ売出タサムカ為多額ノ商品ヲ蓄積シ且ツ独撲兩國人力必需品ニ關シ長期ノ契約ヲ締結シ且媾和條約締結後始メテ履行セラルヘキ運送ニ關スル契約ヲモ結ヘルコトハ人ノ知ル

セサルヘカラサル尙同氏ハ其ノ可能ナルコトヲ疑ハサルト同時ニ現戰爭ノ如キ事件ノ再発ヲ未然ニ防止スルノ策ヲ講スルヲ急務トスト論シ最後ニ白耳義ハ戰前獨逸國ト重大ナル經濟關係ヲ有タルニ拘ラス若シ連合諸國トノ妥協ヲ見ルコトヲ得ハ經濟上ニ於テモ政治上ニ於ケルト同様連合諸國ト同一ノ歩調ヲ取ルヲ躊躇セサルヘシト曰ヘリ
「ソノニノ」氏ハ戰爭中ノ經濟戰爭問題ト戰後ノ經濟戰爭問題トハ全ク別異ナル二箇ノ問題ナルコトヲ注意シ今ヤ軍事問題ニ付論議スヘキモノ甚多キノミナラス戰後ノ經濟戰爭ニ關シ今ヨリ規約スル所アラムトスルハ中々ノ大事業ナレハ之ヲ後日ニ譲ル方然ルヘシトノ意見ヲ述フ
「アスキス」氏ハ可成速ニ戰爭ノ成功ヲ收メムコトヲ期スル為ニ今ヤ戰役中ノ經濟戰爭問題ヲ議スル所以ナリト注意セリ

「ソノニノ」氏ハ伊國ヨリ瑞西ヲ經テ軍用品ノ獨逸ニ流入スルコトヲ取締ル上ニ於テ非常ノ困難ヲ感スル旨ヲ述ヘ極端ニ其取締ヲ励行スレハ遂ニ連合側ニ對スル瑞西ノ歛心ヲ失フ虞アリト曰ヘリ
「ブリアン」氏ハ伊國政府ノ為シタル留保ハ之ヲ諒トス然

所ナリ故ニ若シ之ヲ此儘ニ放任シ置カム力軍事上ノ成功モ或ハ之ヲ經濟上ニ於テ失フニ至ルヤモ測リ知ルヘカラス尤モ本会ハ經濟問題ノ全般ニ亘リテ之ヲ論議シ又ハ各國ノ利害ヲ精察セシシテ何等ノ決定ヲ為サムトスルモノニ非斯単ニ連合諸國ノ全体ニ關連スル重要問題ヲ討究セントスルニ在リ仏國政府ハ巴里ニ敵國側物資供給ノ制限ニ關スル一委員会ヲ設立シタルカ倫敦ニ於テモ類似ノ機関アリテ右ノ両機関ハ其間ニ斷エス連絡ヲ保チソソアリサレハ他ノ連合諸國ニ於テモ其国内ニ同種ノ委員会ヲ設置シ右委員会ニ各交戰國ノ代表者ヲ參列セシメ得ハ好都合ナラムト思ハル

将来ハ兔モ角トシテ目下ノ急務ハ各國ノ共同ヲ固ウシ敵ニ乘スヘキノ覺隙ヲ与ヘシメスシテ以テ其材料供給ノ途ヲ杜絶スルニ在リ之の素ヨリ容易ノ業ニ非ス然レトモ相当ノ手段ヲ講セハ軍事上ニ於ケルト同シク經濟上ニ於テモ成功ヲ収メムコト不可能ニ非サルヘシト結論セリ

「ド・ブロックヴヰル」氏ハ本問題ニ關シテハ全然仏國首先ト同意見ナル旨ヲ述ヘ然シナカラ經濟政策ハ感情問題ニ非スシテ全ク實際問題ナリ故ニ要ハ先ツ実行ノ能否ヲ考察

諸国商業制限委員会及物資配分ノ機関等アレトモ其相互間ニハ未タ何等共通ノ連鎖アラサルヲ以テ之ヲ統一スル中央機関ヲ設置シ之ニ基キ対中立國策ヲ立ツルニ於テハ中立諸國トノ紛争ヲ避クルコト亦難カラサルヘント曰ヘリ

「ソニニノ」氏ハ連合諸国内ニ各々敵国商業制限委員ヲ設置スルハ却テ効果少ナカルヘク寧ロ連合諸国全体ノ代表者ヲ以テ組織スル唯一ノ中央機関ノ方結果良好ナルヘシトノ説ヲ述フ

「ブリアン」氏ハ各國委員会ハ各國ニ於ケル特別ノ事情ニ適合スヘキ地方的ノモノナリ然レトモ唯一中央機関ノ設立ヲ以テ足レリトスルノ説ニ對シ敢テ反対スルニ非スト曰ヘリ
ノ説ヲ主張シ且ツ各國委員会ニ外國委員ヲ置クノ目的ハ各國間意見ノ一致ヲ來タシ各國ノ歩調ヲ合ハス上ニ於テ頗ル便利ナリト曰ヘリ

「チトニー」氏曰ク「伊國ニ於テ地方委員会ヲ設立セムコトハ瑞西輸入監視組合 (La Société Suisse de Surveillance)ト重複スルノ虞アリ蓋シ伊國官憲ハ瑞西國給与委員会

「ペーネンス」男爵ハ「ジリインスキ」將軍ノ引用シタル事例ハ十分中央機関設置ノ理由アルコトヲ證明スルモノナリト曰ヒ

「ソニニノ」男爵ハ若シ中央委員会ニシテ存在セハ露国代表委員ハ瑞典ノ物資供給ニ對スル過酷ノ監視ヲ不可トスルノ議論ヲ同委員会ニ於テ持出シ得タルナルヘント云ヒ此際中央委員会ノ設立ハ事宜ニ適スルモノト思ハルト述フ

「ヴェスニツチユ」氏ハ右中央機関ノ設立ニ贊成セリ

「アルベール、トーマ」氏曰ク「瑞典ニ於ケル綿ノ輸入額ハ戰爭前年額一万一千噸ニ過キサルニ昨年上半季中既ニ一万六千噸ノ巨額ニ達シ又瑞典ヨリ萊因河ヲ經由シ兵器製造ニ要スル鉱石類百五十万噸独逸ニ輸入セラレタリ而シテ是等綿及鉱石ハ直ニ我將卒ノ頭上ニ墜下シ来ルヘキ危險ニシテ之ヲ瑞典ニ於ケル幾等カノ不満ヨリ生スル危險ニ比スヘクモ非スサレハ本會議ニ於テ經濟問題ヲ論スルニ當リ其要旨ハ専ラ戰局終了ノ目的ヲ達スルモノニ在ルコトヲ忘レサラムコトヲ要ス」ト

「ジリインスキ」將軍ハ經濟封鎖勵行ノ必要ヲ認メ唯タ其ノ或ハ過度ニ失スルノ結果中立諸國ヲシテ敵國側ニ立タシ

ムルカ如キコトナカラムヲ要スト曰ヘリ

「ブリアン」氏ハ連合諸國ニシテ其取ラントスル手段ニ對シ予メ慎重ノ考量ヲ加フルニ於テハ右手段ハ必スシモ他ニ苦情ヲ醸スカ如キコトアルヘキ咎ナク紛議ノ原因トナリタルハ或種ノ手段カ專恣ニ流ルルノ觀アリタルカ為ナリ例へ瑞典ニ付テ之ヲ曰ハムカ若シ瑞典人ニ對シ何々商品ノ同國戰前輸入噸數何程ニシテ千九百十四年以來同品輸入額ノ十倍セルコトヲ明証セハ彼レハ必スヤ右輸入增加額カ独逸ヲ利スルモノタルヲ認ムルナルヘシ如此詐害行為ハ素ヨリ之ヲ妨遏セサルヲ得ス兎モ角独逸ニ對スル物資供給ヲ防止スルハ連合諸國ニ取りテハ一ノ正当防衛ニ外ナラサルナリト曰ヒ

尤モ本問題ノ解決カ決シテ容易ノ業ニ非サルコトハ誰シモ之ヲ認ムル所ニシテ從テ「ソニニノ」男爵ノ為サレタル留保モ首肯シ難カラス去リナカラ若シ連合諸國間協議一致シ相当ノ手段ヲ取ルニ於テハ中立諸國ヲシテ我ニ聽カシムルコトモ甚タ難キニ非サルヘシト述ヘ同氏ハ本會議員中ヨリ適當ノ者若干名ヲ選任シ之ヲシテ本問題ヲ討究セシメ其解決案ヲ會議ニ提出セシメムコトヲ提議シ且ツ曰ク同委員会

(Commission de Rationnement de la Suisse)ノ意見ヲ微セシテ何等輸出許可ヲ与ヘタルコト未タ嘗テ之アラサレハナリ事情此ノ如クナルニ同一ノ問題ヲ處理セムカ為別ニ一ノ委員会ヲ設立セムコトハ其用ナキニ似タリ但シ独逸トノ商業ヲ制限セムカ為中央委員会ヲ組織セムコトハ真ニ利益アルヘキ儀ナラム」ト
「ソニニノ」氏曰ク中立諸國ニ於テ特ニ輿論ノ沸騰ヲ來スモノハ物資供給ノ制限ニ在ラスシテ却テ国外搬出ノ禁制ニ在リ」ト
「ジリインスキ」將軍ノ意見ニ依レハ物議ノ因トナルモノハ禁制ニ非ラスシテ却テ中立國ニ闕スル監視手段ナリ例ヘハ一時瑞典國交ノ斷絶ヲ惧レシメタル事件モ全ク瑞典人力連合國ノ監視ヲ以テ嚴酷ニ過クルモノト為シタルニ基ケリ瑞典ニシテ独逸側ニ左袒セムカ戰爭ノ負担ニ任スヘキハ露西亞一国アルノミ瑞典ノ軍隊カ露國ニ取り極メテ重大ナル危険ヲ釀スモノニハ非サルモ其戰局ニ加入スルハ矢張連合諸國ニ對シ種々難問ヲ生スルニ至ルヘシサレハ瑞典ニ関シテ取ルヘキ手段ハ同國ヲシテ独逸側ニ投セシムルニ至ラサル程度ノモノタルコトヲ要ス

ハ又同時ニ対敵國商業ノ問題ヲモ攻究セラレタシ実際或國ニ於テハ敵國トノ取引ヲ妨止セムカ為或種ノ手段ヲ取リタルモ右ハ区々ニシテ画一スル所ナク独逸ハ或國ニ対シテハ依然商業ヲ繼續セリ此ノ如キハ実際敵側ニ於テ実利上ノ利益アルノミナラス其無形上裨益スル所大ナルモノアルヘシ抑々独逸兩國ノ開始シタル戦争ハ殘虐無道ノ戰争ナリ此ノ戰争ノ終局ヲ急カムカ為ニハ出来得ル丈兩帝國ノ商業ヲ妨害スルコトヲ要ス若シ独逸及奥地利ニシテ他諸國ト引続キ商業ヲ為シ得ルニ於テハ是レ彼等ニ取リテハ益々信用ト勇氣トヲ増スヘキモ之ニ反シ中歐兩帝國ニシテ戰争カ永引ケハ永引ク程其商業ノ全滅ヲ見ルヘキコト確実ナルニ至ラハ遠カラスシテ人心全ク沮喪スヘシ蓋シ右ハ無形ノ要素力爭闘上必要欠クヘカラサル兵器ノ一タル今日ニ於テ殊ニ然リ

トス敵國商業ノ制限ノ為ニ取ルヘキ手段ノ統一ハ極メテ難事ナルヘキカ故ニ姑ラク之ヲ措キ單ニ右手段ヲ整理スルヲ得ルモノトスルモ同委員ノ業タルヤ有益ナリト謂フヘシト本會議ハ仏國首相ノ勸告ヲ容レ委員トシテ「ペイエン」男爵、「ラカズ」提督、「アルベル、トーマ」氏、「エドワード、グレー」氏、「チャガス」氏、松井氏、「セバスチアーノ」氏、及「セバストイア」氏等ハ各國參謀本部間ニ全然意見ノ一致ヲ見ルコトヲ得タリ即チ伊國ハ寧ロ中口径ノ砲及機関銃ノ必要ヲ感スルニ付仏國ハ一二〇、一「ミリ」砲及九五「ミリ」砲若干門ヲ供給シ弾丸ヲ添フルモ火薬ハ伊國ヨリ出スコトト為シ英國モ直ニ「ルイス」機関銃若干ヲ伊國ニ譲与シ尚製造力ノ増加ト共ニ今後幾多ノ譲与ヲ為スヘキカ已ニ仏國ヨリ注文済ノ分ヲ引渡セシ後ナル可キヤ勿論ナリ露國ハ野戰重砲ヲ不足シ且新式砲ノ供給ヲ望ミ之ニ対シテ仏國ハ差当リ一二〇、一「ミリ」砲及九〇「ミリ」砲

ハスモ可ナル旨ヲ述ヘ統チ「アルベル、トーマ」氏ヲ招キテ報告ヲ為サシム

同氏（軍需部陸軍次官）ハ武器及労力活用ノ問題ニ關スル分科委員会ノ決議ニ關シ大要左ノ如キ報告ヲ為セリ

分科委員会ハ連合軍總攻擊ノ時期ヲ能フ限リ早ムルト共ニ本攻擊ノ威力ト効力トノ甚大ヲ期セムカ為シ如何ニセハ已ニ為シツツアル連合各國間ニ於ケル武器ノ交換及讓渡ニ依リ直ニ或軍ノ武力ヲ增加シ得ヘキヤ（）如何ニセハ原料及労力ヲ交換シテ軍需品ノ製造力ヲ増進シ得可キヤニ付討議ノ結果左ノ如ク決定セリ

第一問ニ付テハ各國參謀本部間ニ全然意見ノ一致ヲ見ルコトヲ得タリ即チ伊國ハ寧ロ中口径ノ砲及機関銃ノ必要ヲ感スルニ付仏國ハ一二〇、一「ミリ」砲及九五「ミリ」砲若干門ヲ供給シ弾丸ヲ添フルモ火薬ハ伊國ヨリ出スコトト為シ英國モ直ニ「ルイス」機関銃若干ヲ伊國ニ譲与シ尚製造力ノ増加ト共ニ今後幾多ノ譲与ヲ為スヘキカ已ニ仏國ヨリ注文済ノ分ヲ引渡セシ後ナル可キヤ勿論ナリ露國ハ野戰重砲ヲ不足シ且新式砲ノ供給ヲ望ミ之ニ対シテ仏國ハ差当リ一二〇、一「ミリ」砲及九〇「ミリ」砲

トブル」氏及「ヨヴァーヴキツチ」氏ヲ指名セリ次ニ議長ハ議員中ヨリ他ノ問題ニ付質問ナキヤヲ尋ネタルニ發言ヲ求ムル者ナカリシニ付午後五時散会セリ

第三回會議

三月二十八日（火曜日）午前十一時開会

「ブリアン」氏開会ヲ宣シ次ノ如キ概括的宣言案ヲ提議ス巴里ニ会同セル白耳義國、仏蘭西、大不列顛國、伊太利國、日本國、葡萄牙國、露西亞國及塞爾維國政府ノ代表者ハ一九一六年三月十二日ノ連合諸國參謀會議ノ決定ヲ承認シ連合諸國間ニ於ケル意見ノ合致及團結ノ鞏固ナルコトヲ徵証シ且本會議決議事項ノ協同動作實行ヲ輔翼スルニ適スル總テノ措置ヲ確認ス

協同動作ノ方法及条件ハ連合諸國參謀部之ヲ決ス

「ペイエン」男ハ本宣言ハ之ヲ世ニ公ニセラルヘキヤヲ問ヒ議長ハ本會議カ之ヲ望ムナレハ世ニ公ニスルモ差支無カル可キ旨ヲ述ヘ「ロイド、ジョージ」氏ハ「シャンティイ」ニ於ケル決議ノ通知ヲ請ヒ議長ハ之ニ對シテ本件ニ關シテハ既ニ第一回會議ノ際其報告アリタルコトヲ以テシ尚ホ本宣言ハ委員諸氏ニ熟考ノ時間ヲ与フル為其採決ヲ午后ニ廻

若干門並其必要弾薬ヲ与ヘ、英國ハ目下「ヴィーカース」製造所ニテ製造中ナル四「インチ」半、八「インチ」及十二「インチ」榴彈砲ヲ出来上リ次第漸次譲与ス可ク尚仏國ハ予メ約束シ得サルモ可成速ニ製造力ヲ増加シ以テ露國ニ對スル供給ニ關シ能フ限リノ尽力ヲ為スヘキカ二八〇「ミリ」重砲ニ付テハ目下編成中ノ仏國重砲隊ノ完成ヲ待チテ露國ノ要求ニ應スルヲ得ヘシ

仏國ハ英國トノ條約ニ依リテ塞爾維ニ對スル兵器弾薬ノ供給義務ヲ負担シ、今後塞國軍ハ仏軍ト同一ノ武器ヲ有スヘク、仏國ハ今俄カニ塞國ノ要求全部ヲ充當シ得サルモ必要ナル小銃ノ一部分ハ已ニ発送セラレ残部モ遠カラス送荷セラルル筈ナリ尚塞國政府ノ希望ニ依リ「サンティエンヌ」ノ兵器製造所ヲシテ兵器ヲ貯藏セシメ以テ一朝塞國軍カ其故國ノ地ヲ踏ムニ至ラハ古兵ノ蹶起シテ來リ加ハルモノノ為メニ備ヘ且機関銃、「シユナイデル」七五「ミリ」山砲、「クルップ」七〇「ミリ」山砲及「シユナイデル」一二〇「ミリ」榴彈砲ヲ塞國軍砲隊ノ為予メ準備ス

仏國ハ此他葡國ノ山砲ヲ塞國ニ融通方交渉ノ任ニ當ルヘ

シ

第二問中刻下ノ急務タル石炭問題ニ付テハ之カ分配ニ関シテ關係諸國間ニ略々遺憾ナキ解決ヲ見タルカ労力問題ニ至ツテハ協定容易ナラサリンモ漸ク次ノ如ク解決セリ即チ仏國ニ於ケル労力ノ欠乏ヲ補ハンカ為塞國ハ目下再編成中ナル塞國軍内ニ在ル特別技能ヲ有スル労働者ヲ仏國ニ送遣ス可ク伊國モ場合ト製造ノ性質トニ依リテハ若干ノ特別技巧者ヲ送附シ得ルノミナラス四十歳以上五十歳以下ノ労働者ヲ募集シテ以テ援助ヲ与へ得ヘク露國大使モ亦露國労働者ノ融通方ヲ本国政府ニ請議ス可キヲ約セリ

最後ニ捕虜ニ關シテ會議ノ注意ヲ喚起シテ曰ク
独逸ニ在リテハ現ニ露仮ノ捕虜ヲ使役シテ砲弾ノ製造ニ從事セシメツツアリ就テハ連合側ニ於テモ同様ノ措置ヲ執リ一連合國內ニ於テ何等ノ用ヲ為ササル独逸捕虜ヲ他ノ連合國內ニ送遣シ以テ有効ニ其労力ヲ使用スルハ機宜ノ処置ナル可キヲ信シ分科委員会ハ全会一致之レカ實行ヲ可決セリ云々ト

議長ハ右ノ報告ニ對シテ異議ナキヤヲ會議ニ諮リ

使役セシ証拠ナリト謂ヒ「ソソニノ」氏ハ本件ニ關シテハ二問題アルコトヲ注意セサル可カラス其一ハ捕虜ノ使用問題ニシテ其二ハ捕虜ノ融通問題ナリト言ヘリ
「アルベール、トーマ」氏ハ右二問題ノ區別ニ對シテ異議ナク又本會議ニ於テ捕虜融通問題ヲ討議セサルコトニモ反対セサルカ兎モ角塞國軍ニ捕ヘラレシ墺國兵ニ關シテノミハ最早ヤ主義ノ問題ハ起ラサルヘク右ノ捕虜カ伊國ニ在ルモ仏國ニ在ルモ實質上何等差別ナカルヘキヲ切言セリ
塞國公使ハ独逸兩國ニシテハ連合諸國ノ捕虜ヲ使役ストセハ連合側ハ當然同一ノ擧ニ出ルノ権利アリト主張シ塞國ノ捕ヘタル敵兵ニ對シ塞國ハ常ニ之レヲ有用ノ地ニ移送シ且之レカ利用ヲ遺憾ナカラシメンコトヲ努メテ懈ラサリキ故ニ塞國ハ仏國ニ於テ之ヲ利用セントスルニ對シテ毫末モ異議ヲ唱ヘサルノミナラス伊國政府カ本件ニ付仏國政府ト協議センコトヲ切望シテ已マサルモノナリト述ヘシカ「イスヴォルスキ」氏ハ捕虜融通ノ件ハ本国政府ノ訓令ヲ仰カサレハ贊否明言シ難キヲ陳ヘタリ

此ニ於テ「ブリアン」氏ハ捕虜融通ノ件ハ伊國政府ノ異議アルニ依リ本會議ニ於テ討議セス各國政府ノ攻究ニ任スヘ

塞國公使ハ分科委員会ニ於ケル塞國ニ對スル仏國ノ措置振ニ對シ謝意ヲ表ス
其他何等異議ヲ唱フル者ナカリシカハ議長ハ本會議カ分科委員会ノ決定ヲ承認セシ旨ヲ宣言ス

此ニ於テ「アルベール、トーマ」氏ハ更ラニ捕虜利用ノ問題ニ關シテ本會議ノ意見ヲ聞カソコトヲ望ミ「サンニノ」氏ハ本問題ハ種々面倒ヲ起ス可キ惧アルニ付何等決議セラソコトヲ希望シ、「ブリアン」氏ハ本問題ヲ各國政府今後ノ攻究ニ讓ラント提議シ「チットニー」氏モ亦本問題ハ直チニ原則問題ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ之ニ触レサランコトヲ主張ス

「アルベール、トーマ」氏ハ「サンニノ」氏ノ留保ニ同意セルモ已ニ塞國ニ依リ捕ヘラレシ墺國兵カ目下伊國ノ一島ニ抑留セラルル事實アル以上本件ハ最早ヤ捕虜ノ貸借問題ニアラスシテ連合諸國間ニ於ケル捕虜ノ分配問題タルニ過キスト論シ「チットニー」氏ハ重ネテ本問題ヲ各國政府間ノ交渉ニ任セタント提議セリ

「ド、ブロックヴィル」男ハ近頃白軍ニ捕ヘラレシ若干ノ露國兵アルカ右ハ獨軍カ同方面ノ第一線塹壕工事ニ露兵ヲ

キヲ述ヘ此留保ノ下ニ各國委員ハ分科委員会ノ報告ヲ是認セリ右ノ後「ラカーズ」提督（仏國海軍大臣）ハ船貨及敵國補給防遏問題ニ關スル分科委員会ノ決議ヲ報告ス其要ニ曰ク
本委員会ハ（一）連合諸國間ニ於ケル經濟上ノ一般的團結（二）對敵補給禁遏及（三）運輸及船貨ノ三問題ヲ討議セリ
第一ノ点ニ付分科委員会ハ連合諸國政府ノ敵國ニ對スル經濟的團結ノ鞏固ナルヲ表証センカ為左ノ決議ヲ為セリ
連合諸國政府ハ經濟上ノ範囲ニ於テ意見及利益ノ一致團結ヲ實現セント決シ近ク巴里ニ開カル可キ經濟會議ニ向ツテ其実行方法ニ關シ諸國政府ニ提議スルノ任ヲ委託ス

第二ノ点ニ關シ本分科委員会ハ物資ノ敵國ニ入ルヲ防遏センカ為執ル可キ經濟上ノ手段ヲ攻究スルノ目的ヲ以テ中央常設委員会ヲ巴里ニ設置センコトヲ本會議ニ提議ス蓋シ連合各國ハ個々ノ利益ノミヲ顧ミスシテ一般ノ利害ヲ念トセサル可カラサレハナリ

尤モ伊國大使ノ注意ニ依リ同委員会ハ單純ナル諧問機關ニシテ經濟的動作ノ統一ヲ期スルヲ目的トナシ各國ニ於

ケル同種ノ国内委員会ハ各自其執ル所ノ主義綱領方策並其得タル情報ヲ中央委員会ニ報告シ同委員会ハ之レヲ綜

合セシ後更ラニ各国ニ転達スヘキモノト決ス從テ同委員会ハ何等実行權ヲ有スルコトナク又固ヨリ實行機關タル

各国内委員会ニ代ル可キモノニモ非ラサルナリ分科委員会カ此点ニ付本會議ニ提議セント決セシ決議案次ノ如シ

本會議ハ物資ノ敵国ニ入ルヲ防遏センカ為執ル可キ経済上ノ手段ヲ統一且有効ナラシメントスル目的ヲ以テ常設委員会ヲ巴里ニ設置ゼンコトヲ議決ス

該委員会ニハ連合各國ヨリ代表者ヲ出スヘキモノトス第三点ニ關シ分科委員会ハ連合各國ハ其使用船舶ヲ挙ケテ共同ノ用ニ供スルコト及戰爭ニ基ク各種ノ負担ヲ可成公平ニ各國間ニ分担セシムルコトノ二主義ヲ基礎トシテ協議ヲ進メタリ

本問題ハ已ニ倫敦ニ設立セラルル委員会ヲ発展セシムレハ其目的ヲ達シ得可ク即チ右委員会ニ各國ノ代表者ヲ列セシメ、次ニ各國ノ支配下ニ在ル船舶ノ表ヲ作成シ而シテ一國ニ於テ余分ノ船舶アラハ之ヲ他國ニ融通シ以テ船舶欠乏ニ關スル焦眉ノ急ヲ救ハハ可ナリ 本件ニ關シ

分科委員会ハ左ノ提案ヲ本會議ニ提出ス

一、倫敦ニ國際中央備船局ヲ設置スルコト

二、海運ヨリ生スル負担ヲ衡平ニ連合各國民間ニ配分シ並運賃ノ上騰ヲ防止スル為執ルヘキ便法ヲ共同且

迅速ニ攻究スルコト

議長ハ分科委員会ノ提案ニ對シテ質問ナキヤヲ詰リ「ティットニノ」氏ハ同委員会提出ノ三提案ヲ別々ニ討議セントヲ提議シ會議之レヲ容レ依テ議長ハ第一提案ヲ附議ス

「アスキス」氏ハ英國政府ハ主義上分科委員会ノ提案ニ異議ナキモ将来誤解ヲ惹起セサランカ為其意義ヲ明瞭ナランム可キ必要ヲ感ス即チ今後執ル可キ方策ニ關シ戰時中ト戰後トヲ明白ニ區別セサル可カラス而シテ英國政府ハ經濟會議カ將來ノ施設ニ付攻究ゼンコトニ對シ何等異議ナキモ敢後ニ於ケル英國ノ經濟政策ヲ束縛スルカ如キ決議ヲ為サン

トスルニ對シテハ異議ナキ能ハスト謂ヘリ

「ラカーズ」提督ハ之ニ答ヘテ曰ク分科委員会ノ提案ノ主旨ハ經濟會議ノ決議ヲシテ各國政府ヲ拘束セシメントスルモノニ非ラス同會議ハ唯々其研究討議ノ結果ヲ各國政府ニ提議スト言フニ止リ之レカ取捨ハ一ニ各國政府ノ自由決定

ニ在リ云々ト
「ティットニー」氏ハ分科委員会ニ於テハ經濟會議ノ決議ハ總テ追認ヲ条件トスルモノ即チ *ad referendum* ナリト解セリト述ヘ「ブリアン」氏ハ右ニ關シテハ何等誤解ノ存ス可キ筈ナシ但シ各國ノ利害カ一致セサルモノアルカ為時トシテ原則上議相容レサルコトアリトスルモ其相容レサル点ヲ除キ尚或点迄ハ意見ノ一致ヲ見ルコト難シトセス此意味ニ於テ本會議ハ分科委員会ノ提案ヲ容ルルモ可ナラスヤト提議シ「ラカーズ」提督ハ分科委員会ハ全會一致連合諸國力戰時中經濟上ニ於ケル対獨團結ノ鞏固ヲ計リ之レヲ表示スルノ必要ヲ認メタリト言ヒ依テ本會議ハ分科委員会ノ提案ヲ可決シタリ

次ニ「ブリアン」氏ハ第二提案ニ付述ヘテ曰ク常設委員会ハ決シテ各国内ノ同種委員会又ハ各國政府ヲ束縛スルモノニ非ラス尙ホ分科委員会ノ提案ヲ採用スルモ之ニ對シ為サレタル留保ハ何處迄モ有効ナリト
第二ノ提案モ異議ナク其儘可決セラル
此ニ於テ議長ハ第三ノ提案ヲ附議ス
「サー、エドワード、グレー」氏曰ク本件ニ關シ英國ニ於

テ協議シタル結果ヲ此處ニ報告シ得サルハ遺憾ナルモ實際ニ於テ右協議ノ結果ハ一般ニ信セラルルヨリモ一層広ク且有効ノモノナルコトハ之ヲ公言スルヲ憚ラス実ニ英國政府ハ現状改善ノ為最善ヲ尽セシナリ而シテ今回提出ノ決議ハ何等本問題ニ付新タナル解決ヲ与ヘ得ヘキモノニ非スト雖モ英國政府ハ之ニ同意スルヲ躊躇セサルヘシト「ラカーズ」提督ハ英國ノ尽力ニ對シテ謝意ヲ表セリ

「ブリアン」氏ハ曾テ英國ヲ往訪シタル際一度運賃問題ノ出ルヤ英國政府ハ之カ解決ニ付最善ノ努力ヲ惜マス直チニ倫敦委員会ノ設立ニ同意シ且同会ニ各國ノ代表者ヲ列セシメゾコトヲ述ヘ更ニ曰ク倫敦委員会ノ功績ハ已ニ頗ル顯著ナルモノ存スルヲ認ムト雖モ尙ホ未タ本問題ニ關スル世人ノ杞憂ヲ解クニ至ラス本件ニ付テハ仏伊両國ニ於テ議會ノ提案ヲ採用ゼンコトヲ切望ス云々ト「サランドラ」氏ハ仏國總理大臣ノ意見ニ賛成シ英國政府ノ尽力ニ對シテ謝意ヲ述ヘ尚英國政府カ連合諸國共同利益ノ為更ラニ進シテ尽力スル所アル可キヲ確信スト附言セリ

本會議ハ分科委員会ノ提案ヲ其儘採用ス

味ス

議長ハ今ヤ残ス所ハ開会ノ劈頭ニ提議セラレシ「一般的宣言案」ノ討議ノミナレトモ頗ル重要問題ナレハ午後ノ會議ニ廻ハス可キ旨ヲ述ヘ尚「ブリアン、ブルジョア」氏ノ起草セル宣言文案ヲ會議ニ紹介セリ同文案案次ノ如シ

一九一六年三月二十七日及二十八日ノ両日ヲ以テ巴里ニ

会同セル連合諸國ノ代表者ハ更ニ不单独講和ノ誓約ヲ重

ヌ

右代表者ハ專横独尊主義ノ政策ヲ根本的ニ打破シ、須要ノ制裁ヲ定メ、依テ以テ條約及國際法規ノ遵奉ヲ保障シ且正義ノ全勝ト共ニ人民ノ自由ト尊嚴トヲ確保スル平和ニ非ラサレハ之ニ同意セサル可キ確乎タル決心ヲ表証ス

此目的ヲ達センカ為右代表者ハ全戰線ニ亘リ唯一離ル可カラサル共同動作ノ必要ヲ確認ス

右ニ言フ共同動作トハ各國軍參謀部間ニ協定セラレシ軍事上ノ共同動作及本會議ニ於テ一定ノ機關ヲ設定シテ一定ノ結果ヲ予期セル經濟上ノ共同動作並獨リ各國個々ノ利益ノミナラス文明人道ノ為全勝ヲ期セントスル目的ヲ以テ全力ヲ擧ケテ尽サントスル各代表者ノ意見ノ一致及動力ス可カラサル決意ヲ保障スル外交上ノ共同動作ヲ意歇メストノ鞏固ナル決心ニ依リ確保セラルル外交行動ノ一致トヲ指ス

右ノ宣言案ハ全会一致之ヲ可決シ最後ニ「ブリアン」氏ハ大要左ノ如キ閉会ノ辭ヲ述ヘタリ
今回ノ會議ニ於テ各國委員諸氏力議長ヲ輔ケテ克ク議事所アラントス
今ヤ言葉ノ時期ニ非ズシテ實行ノ時期ナリト雖モ正義トノ進行ヲ容易ナラシメタルコトニ対シ茲ニ深ク感謝スル

自由トノ為ニ戰線ニ立チ軀テ連合軍ノ軍旗ノ上ニ光輝アル戰勝ノ譽ヲ齊ラス可キ勇敢ナル將卒ニ対シ茲ニ全会一致賞賛ノ誠意ヲ表明スルハ必スヤ本會議ノ精神ト相合致ス可キヲ疑ハズ云々ト
議長ノ演説ハ各委員ノ熱誠ナル称讃ヲ博セリ次ニ「ティツ

議長ハ新旧宣言文案ニ對シテ更ラニ攻究方ヲ會議ニ提議シ午后五時半ヲ期シテ再ヒ開会センコトヲ諾リ同意ヲ得タリ科委員会ヲ開カソコトヲ提議シ本會議ノ同意ヲ得タリ 同委員会ハ左ノ諸氏ヨリ成ル
「ブリアン」氏
「ブルジョア」氏
「ベイエン」男
「ソニニノ」氏
「チャガス」氏
「イスヴォルスキ」氏
「ヴァエスニツチ」氏
同委員会ハ討議ノ結果左ノ宣言文案ヲ本會議ニ提出セリ
一九一六年三月二十七日及同二十八日巴里ニ会同セル連

第四回會議

三月二十八日（火曜日）午後五時半開会

「ブリアン」氏ハ總括的宣言ノ文案ヲ決定センカ為一ノ分科委員会ヲ開カソコトヲ提議シ本會議ノ同意ヲ得タリ 同委員会ハ左ノ諸氏ヨリ成ル
「ブリアン」氏
「ブルジョア」氏
「ベイエン」男
「ソニニノ」氏
「チャガス」氏
「イスヴォルスキ」氏
「ヴァエスニツチ」氏
同委員会ハ討議ノ結果左ノ宣言文案ヲ本會議ニ提出セリ
一九一六年三月二十七日及同二十八日巴里ニ会同セル連

トニー」氏ハ各國委員ヲ代表シテ今回仏國政府カ卒先シテ本會議開催ノ勞ヲ執リシヲ謝シ本會議ノ結果ハ必スヤ戰爭終結上ニ大ナル影響アル可キ旨ヲ述ヘ議長ノ勞ヲ謝シ讃辞ヲ呈セリ
終ニ「ブリアン」氏ハ右ニ対シ謝意ヲ述フルト同時ニ各國委員ノ勞ヲ謝セリ

午后七時閉会ス

連合諸國會議

一九一六年三月二十七日及同二十八日

決 議 文

第一

一九一六年三月二十七日及同二十八日巴里ニ会同セル連合諸國政府ノ代表者ハ各國間ニ於ケル意見ノ合致及團結ノ鞏固コトヲ徵証シ、全戰線ニ亘リテ行動ノ統一ヲ期セん
諸國政府ノ代表者ハ各國間ニ於ケル意見ノ合致及團結ノ鞏固コトヲ徵証シ、全戰線ニ亘リテ行動ノ統一ヲ期セん
カ為施サレタル總テノ措置ヲ確認ス
右行動ノ統一トハ各國軍參謀部間ニ決定セラレシ軍事行動ノ一致ト、本會議カ綱領ヲ定メシ經濟行動ノ一致ト及共同ノ目的ヲ達センカ為、終局ノ勝利ヲ得ルニ至ル迄ハ断シテ攻戰ヲ歇メストノ鞏固ナル決心ニ依リ確保セラルル外交行動ノ一致トヲ指ス

動ノ一致トヲ指ス

第二

シ報告ノ件

附屬書 右報告書

機密第九号 (五月卅一日接受)

大正五年四月二十九日 在仏

連合諸国政府ハ經濟上ノ範囲ニ於テ意見及利益ノ一致團結ヲ実現セント決シ近ク巴里ニ開カル可キ經濟會議ニ向ツテ其実行方法ニ關シ諸国政府ニ提議スルノ任ヲ委託ス

第三

本會議ニ物資ノ敵国ニ入ルヲ防遏センカ為執ル可キ經濟上ノ手段ヲ統一且有効ナラシメントスル目的ヲ以テ常設委員会ヲ巴里ニ設置センコトヲ議決ス

該委員会ニハ連合各國ヨリ代表者ヲ出ス可キモノトス
コト

第四

本會議ハ次ノ決議ヲ為ス 一、傭船ニ關スル國際中央局ヲ倫敦ニ設置セントスル案件ノ完成ヲ期スルコト 二、海運

ヨリ生スル負担ヲ連合諸國民ノ間ニ衡平ニ分配シ且運賃ノ上騰ヲ防止スル為執ル可キ便法ヲ共同且迅速ニ攻究ス可キ

コト

二七八 四月二十九日 在仏國松井外務大臣宛

連合國ノ軍事外交及經濟調整會議ノ經過ニ關

去ル三月二十七日及同二十八日巴里ニ開催セラレシ連合諸國會議々事錄摘要ノ上別信ヲ以テ及進達候處本使ノ為シタル留保及議事錄ニ記載セザル事項ニシテ御参考トナルヘキモノ取纏メ別冊ノ通り及御報告候間御査閱相成候様致度此段申進候敬具

(附屬書)

連合諸國會議ノ經過

連合諸國會議ハ去ル三月二十七日及同二十八日ノ兩日ニ亘リテ外務省内ニ開カル、列國委員ノ氏名次ノ如シ

白耳義國

總理大臣「ド、プロックヴィル」男爵
外務大臣「ド、ペイエンス」男爵

陸軍大臣「キッチナー」卿

軍需大臣「ロイド、ジョージ」氏

駐仮特命全權大使「バーティー」卿

參謀總長「ロバートソン」將軍

特命全權公使「オーベルヌ」氏

陸軍大佐「ヘンケー」氏

陸軍大尉「ジー・マーリー」氏

伊太利國
内閣總理大臣「サランドラ」氏

外務大臣「ソニノ」男爵

駐仮特命全權大使「ティットニー」氏

總司令官「カドルナ」將軍

外務次官「マルチノー」氏

軍需部長陸軍次官「ダルオリオ」將軍

外務次官「ジューール、カンボン」氏

參謀總長「ド、カステルノー」將軍

外務省政務通商局長特命全權公使

「ド、マルジュリー」氏

軍參謀長「グラジャニー」將軍

陸軍少將「ペルー」氏

大使館書記官「ド、ベアル」氏

大不列顛國

内閣總理大臣「アスキス」氏

外務大臣「サー、エドワード、グレー」氏

九 連合國ノ軍事外交及經濟調整會議一件 二七八

日本國

駐仮特命全權大使「松井慶四郎」氏

葡萄牙國

駐仏特命全權公使「シャガベ」氏

露西亞國

駐仏特命全權大使「イスヴァルベキー」氏

仏國總司令部附露軍代表者「ジリノベキー」參軍

大使館參事官「セヴァストペーロ」氏

塞爾維亞

内閣總理大臣「ペシッチ」氏

駐仏特命全權公使「ガニベニラチ」氏

外務大臣附特命全權公使「マヴァノヴィッチ」氏

參謀總長「ラシッチ」將軍

會議ハ前後四回ニシテ第一次會ハ三月一十七日午前十時ヨ

リ第二次會ハ同日午后三時ヨリ第三次會ハ翌一十八日午前

十一時ヨリ第四次會ハ同日午后五時半ヨリ開会シ此外武器、

彈薬、通商及船貨等ノ諸問題ヲ審議センカ為ノ分科會ヲ開

ケリ

着席ノ順序ハ仏國ヨリ始メテ他ハ總テ参列諸国々名ノ「アルファベット」順ニ依リ主タル委員中央ニ次ノ如ク着席シ

其他ノ委員ハ夫レ夫レ自國ノ主タル委員ノ後方ニ着席セリ

M. M. A. Thomas J. Cambon Baron de Bro- queriville Baron Beyens Général Viel- mans Asquith Lord Bertie of Thame Sir E. Grey Lloyd George Lord Kitchener	M. M. Général de Cas- telnau Généra Rachi- tch Yovanovitch Vesnitch Rachitch Général Gilinsky Isvolsky Chagas Matsui
--	---

M. M. Général Sir W. Robertson Salandra Tittoni Baron Sonnino Général Cadorna Général Dall'Olio	M. M. Bourgeois Général Roques Briand Amiral Lacaze Général Joffre
--	---

第一決議ノ原案（第一決議案ハ英國委員ヨリ後廻ニサシタキ旨申出テタル為メ第一ヨリ順次ニ決議シ第一ハ最終ニ決議セラレタリ隨テ本使ノ電報中第一第一第三決議ハ別信會議錄中ノ第二、三、四決議ニ相当シ本使電報ノ第四決議ハ同シク會議錄中ノ第一決議ニ相当ス）ハ当初連合諸國ハ々ノ代リニ各國名ヲ一々列記セシカ本使カ日本政府ノ意向ハ請訓ノ上ニアラザレバ言明シ難シト述べタルニ依リ之ヲ連合諸國ナル総括的文句ニ改メタリ本使陳述ノ要領次ノ如シ

「帝國政府ハ本會議ノ決議事項ニ付于テ詳細ナル通告ニ接セザリシヲ以テ本使ハ茲ニ諸問題ニ關シ明確ニ本國政府ノ意向ヲ言明スルヲ得ズ

帝國政府ガ仏國政府ノ招待ニ応シ會議ニ参加シタル所以ノモノハ共同目的ヲ達セんカ為メ連合諸國ト歩調ヲ一シ此等諸國ヘノ関係ヲ益々鞏固ナラシメントノ急切ナルカ故ナリ

昨日來ノ諸提案ハ逐次之ヲ本国政府ニ転達セリ帝國政府カ之ニ対シ慎重且厚意的考慮ヲ加フキハ勿論ナリ」
カ
尚ホ右ノ原文次ノ如シ

Je dois vous faire observer ici que tant pour cette question que pour d'autres, je ne suis pas en mesure de vous soumettre, d'une manière plus claire, l'opinion du Gouvernement Impérial; celui-ci n'ayant pas été prévenu en détail des sujets de nos délibérations. Si le Gouvernement japonais s'est rendu avec empressement à l'invitation du Gouvernement français c'est parce que son premier souci est de se trouver toujours en entière harmonie avec ses alliés et son unique pensée se porte constamment avec l'affermissement de l'accord entre les pays qui soutiennent la même cause.

Toutes les propositions formulées depuis hier, je les transmets au fur et à mesure à mon Gouvernement. Elles seront toutes, j'ai à peine besoin de vous le dire, l'objet de sa part de la plus sérieuse et de la plus bienveillante considération.

第1決議ノ原案次ノ如シ

Les Puissances alliées, résolues à mettre en pratique, dans le domaine économique, la solidarité de leurs vues et de leurs intérêts dont le principe a été posé par la Déclaration de Londres du 5 septembre

1914, convient de fixer, dans la conférence économique qui se tiendra prochainement à Paris, les mesures propres à réaliser cette solidarité.

右ニ対シ(一)伊国代表者ハ「此決議ニ依リ伊国カ連合國ト協議セズシテ別々ニ戰争後通商條約ヲ独喫ト締結セザルコトヲ約束スルカ如キコトトナリテハ伊国トシテハ同意シ難シ

同國ニ於ケル通商條約締結ノ権限ハ議会ニ專属スレハ今日ヨリ戰後ノ通商條約改訂ニ付拘束ヲ受クルカ如キ約束ヲ為シ以テ議會ノ權限ヲ侵犯スルヲ得ズ」ト述ヘシ為メ「一九一四年九月五日ノ倫敦宣言」云々ノ一句ヲ削除シ次ニ(二)英國代表者ハ同決議ノ原案ニ「經濟會議カ諸方策ヲ決定fix.erベ」云々文句アリシニ対シ英國委員ハ本国議会ニ於テ會テ戰後ノ經濟問題ニ關シテ何等約束スルコトナキ旨ヲ明言セシヲ以テ同意シ難シト言ヒ依テ「決定」ヲ「提議」proposerト改メ第三ノ決議ハ嚴ニ戰時中ニ限ラル可クpermanentナル語ハ戰時中常設ノ意味ナリトノ了解ノ下ニ決定セラレタリ

休憩雜談中露國「シリンスキ」將軍ハ本使ニ対シ「露國ハ日本國カ約束通り正確ニ武器ヲ供給セラルニ対シテ平

常深ク感謝シ居レリ、兎角遲勝ナル英仏米ノ供給モ貴國ノ如ク行カバ結構ナルガ」ト言ヒ塞爾維「ラシッチ」將軍ハ「露國ハ野砲ヲ要スルモ山砲ヲ要セズ依テ日本ヨリ山砲ノ供給ヲ請ヒ得ベキヤ」ト問ヒタレハ本使ハ日本力目下兵器ノ供給ニ全力ヲ竭セルヲ述ヘ其ノ到底不可能ナル可キヲ応ヘ置ケリ

「グレー」氏本使ニ対シ「日本ハ第二及第三決議ニ付テハ殆ント無関係ナラン」ト云ヘルニ対シ本使ハ「同感ナリ但シ第四決議即チ船貨ノ問題ノミハ然ラズト信ズ」ト言ヒタルニ「是ハ自分モ能ク承知セルモ何レ倫敦ニテ日本大使館ト英國政府トノ間ニ篤ト詰合ヲ遂クルコト可然」云々ト応ヘタリ

會議ノ終結後「グレー」氏ハ本使ノ為シタル日本政府ノ留保ニ關シ「本會議ノ決定ハ別段日本ノ迷惑トモナラザルベキカ」ト言ハレシニ依リ本使ハ「首相ト共ニ列席セラルル貴大臣ト本使トハ立場ヲ異ニスルノミナラズ日本政府ハ固ト本會議ニ付何等承知セザリシヲ以テ右ノ如キ留保ヲ為モ已ムラ得ズ」ト答ヘタリ尚ホ本使ノ留保ハ聊カ議場ノ好感ヲ殺キシヤノ觀アリキ

一一七九 四月二十九日 在仏國松井大使宛

連合國ノ軍事外交及經濟調整會議開始ニ際シ

議場ニ配布セル仏國政府ノ提案及其附屬書類

要訳進達ノ件

附屬書 右提案附屬書類要訳

機密第一〇号

(五月卅一日接受)

大正五年四月二十九日

在仏

特命全權大使 松井慶四郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

連合諸国会議開始ニ際シ議場ニ配布シタル仏國政府ノ提案附屬書類要領訳文別紙ノ通及進達候間御查閱相成候様致度此段申進候敬具

(附屬書)

仏國政府ノ提案及其附屬書類要領訳文

戰爭ニ關スル經濟問題

其一、連合諸國カ敵國妨礙ノ為中立諸國ニ対シテ執ルヘ
經濟的行動ノ整一、

九 連合國ノ軍事外交及經濟調整會議一件 二七九

可キ經濟會議ニ於テ此一致ヲ実現スルニ適當ナル措置ヲ定メンコトニ同意ス。

其三、船舶ノ稀少及船賃ノ上騰ニ因ル航運ノ恐慌、

甲、倫敦ニ國際中央傭船局ヲ新設シ、連合諸國ノ使用シ得ヘキ船腹ノ最モ有効ナル利用ヲ監視スルコト

乙、船賃ノ上騰ヲ阻止シ且能フ限り之ヲ引下ケンカ為適用スヘキ方法ヲ探究スルコト連合諸國ハ諸方策中特ニ緊急ヲ要スルモノノ攻究ヲ急ク可ク殊ニ(一)各國ト其船主トノ間及(二)連合諸國相互間ニ航海ニ闊スル「プール」(分配ノ約束アル共同資本)ヲ創設シ以テ船賃ヲ控制シ得可キニ着眼ス可シ

附加文書ハ航海ニ闊スル本問題ニ付詳説ス。

附加文書

船賃問題

船腹ノ稀少ニ依リ船賃ノ暴騰ヲ激成セシメシ航賃ノ恐慌ニ對シ急遽適當ナル應急策ヲ攻究セサル可カラス
倫敦ニ於ケル英仏両國間及英伊両國間ノ交渉ハ今日迄僅力ニ断片的ニシテ且不充分ナル結果ヲ齎ラセシノミナリ

甲 先ツ倫敦ニ傭船中央局ヲ創設ス可シ

スル費用ヲ支払ヒ、船主ノ収ムル純収入中ヨリ正当ニシテ且輕少ナル利潤ヲ控除セシ残額ヲ戰時利益税トシテ収納シ、別ニ之ヲ積立ツ可シ
(二)各國ハ右積立金ヲ共同基金ニ払込ミ斯クシテ将来輸入貨物ノ噸数又ハ船賃ニ比例シテ各國ニ払戻サル可キ連合諸國ノ「プール」ヲ形成ス
此制度ハ連合各國ニ對シテ船賃率ヲ統一センメ且其船主等ニ一定ノ利益(但シ夫レ以上增加シ得サルモ然カモ充分ナル利益)ヲ保障シ以テ船賃ニ闊スル一切ノ投機ヲ斷念セシメ得可シ

連合諸國ノ船主間ニ規律生セハ中立諸國政府モ亦同様ノ措置ヲ執ラン、何トナレハ英國船ニ加フルニ仏、伊、葡、露及日ノ諸國船ヲ以テセンカ中立國ノ航運ハ圧迫シ尽サルレハナリ

以上略述セシ提案ハ單ニ指示的ノ意味ニテ提出セラレシナルカ要ハ連合諸國ヲ強要シテ相共ニ本問題ヲ討議セシメ、一日モ早ク倫敦ニ國際共同傭船局ヲ常設セシメ且連合諸國政府ヲシテ自國官憲又ハ倫敦局ヨリ予告ナクシテ指示セラレシ船主ニ對シテ中立國船舶ノ借受ヶラ禁止スヘキ旨ヲ協

英國ニハ「カーボン」卿ヲ議長トナス委員会アリ巴里ニモ「ナイル」氏カ議長タル委員会アリ 此等ノ機關ハ各國ニ於ケル現在船腹ノ有効ナル運用ヲ監視シ且英國又ハ仏國ニ輸入セラル貨物ニ対シ輸送ノ順序ヲ定ム 依テ類似ノ機關カ伊太利、露西亞、葡萄牙及日本ニ於テモ設立セラレ又連合諸國間ノ航運ヲ齊律ス可キ任務ヲ有スル倫敦國際中央局ニハ各國ノ代表者ヲ出スヲ便トス
各國ニ於ケル中立船ノ傭入、連合側船舶ノ徵発、新造船又ハ就役船ノ購入ニ闊スル計画ハ之ヲ中央局ニ通告シスクシテ連合諸國カ相互ノ計画及需要ヲ知ランカ為船賃市場ニ於テ行フ不幸ナル競争ヲ予防シ得可シ

乙 船腹ヲ有効ニ運用スルモ唯少シク船賃ヲ引下ケ得ルニ過キサル可ク依テ更ニ一步ヲ進メ直接船賃其者ヲ低減セシムルカ如キ方法ヲ探究セサル可カラス
此点ニ付各國及其船主間並連合各國間ニ航海ニ闊スル「プール」(分配ノ約束アル共同資本)ノ創設ヲ想定シ得可シ「プール」トハ(一)船主ハ所有船ヲ運用スルモ(イ)國家ハ軍用上之ヲ徵發シ又ハ(ロ)緊急ヲ要スル運送ヲ命令シ得可ク、此場合ニ國家ハ市場相場ニ依リテ徵發価格及命令運送ニ對